



# 台風に備えよう

稲穂が色づき、稲刈りの季節になってきました。実りの秋の到来です。しかし、この時期に心配なのが台風災害です。  
夏から秋にかけて、台風の上陸や集中豪雨が多発します。特に近年は、50年に1度や100年に1度といった災害が各地で頻発しています。  
ここ数年、糸島市内では台風による大きな災害は出ていませんが、平成3年に上陸した台風17・19号は、糸島市に甚大な被害をもたらしました。  
台風被害を少なくするには、市民一人ひとりが日ごろから対策を考え、正しい知識を身に付け、落ち着いて行動することが重要です。

## 知っておきたい

### 台風の知識

熱帯地方で発生した低気圧を「熱帯低気圧」といい、そのうち中心付近の最大風速が毎秒17・2m以上のものが「台風」と呼ばれます。  
台風は、日本付近で年間およそ27個発生し、そのうち日本から300km以内に接近するものが約11個、うち上陸するものが約3個です。  
そこで知っておきたいのが、テレビなどから配信される台風予報図や気象用語。台風の強さ(表①)はもちろん、雨の降り方(表②)などを把握し、台風に備え、対応することが大切です。  
また、災害が差し迫ったときに、どこに避難をするのかを把握し、避難の方法などについて家族で話し合っておくことも重要です。  
しかし、災害のときに最も大きな力を発揮するのが、地域のネットワークです。普段から近所と助け合いの体制をつくり、災害が起こったときの対応などを話し合っておくことが肝心です。

表① ● 台風の強さと気象用語

台風の強さ	最大風速(秒速)
台風	17mから33m未満
強い台風	33mから44m未満
非常に強い台風	44mから54m未満
猛烈な台風	54m以上

- 暴風域…平均風速が毎秒25m以上と考えられる範囲
- 予報円…台風の中心が到達すると予測される範囲  
※中心が予報円内に来る確率は、70%です。
- 暴風警戒区域…予想された時刻に、円内のどこかが暴風域になる恐れのある範囲

表② ● 雨の降り方と災害発生の状況

1時間雨量(mm) 予報用語……イメージ	屋内(木造住宅)・屋外の様子	災害発生状況
雨量:10以上~20未満 用語:やや強い雨 ……ザーザーと降る	屋内:雨の音で話し声がよく聞き取れない 屋外:地面からの跳ね返りで足元がぬれ、一面に水たまりができる	●この程度の雨でも、長く続くときは注意が必要
雨量:20以上~30未満 用語:強い雨 ……どしゃ降り	屋内:寝ている人の半数くらいが雨に気が付く 屋外:傘を差していてもぬれ、ワイパーを速くしても見づらい	●側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる
雨量:30以上~50未満 用語:激しい雨 ……バケツをひっくり返したように降る	屋外:道路が川のようになる 高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが利かなくなる(ハイドロプレーニング現象)	●山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要
雨量:50以上~80未満 用語:非常に激しい雨 ……滝のように降る ゴーゴーと降り続く	屋外:傘は全く役に立たなくなる 水しぶきで辺り一面が白っぽくなり、視界が悪くなる 車の運転は危険	●都市では下水管から雨水があふれ、地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある ●マンホールから水が噴出する ●土石流が起こりやすく、多くの災害が発生する
雨量:80以上~ 用語:猛烈な雨 ……息苦しくなるような圧迫感がある		●雨に恐怖を感じる ●雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要

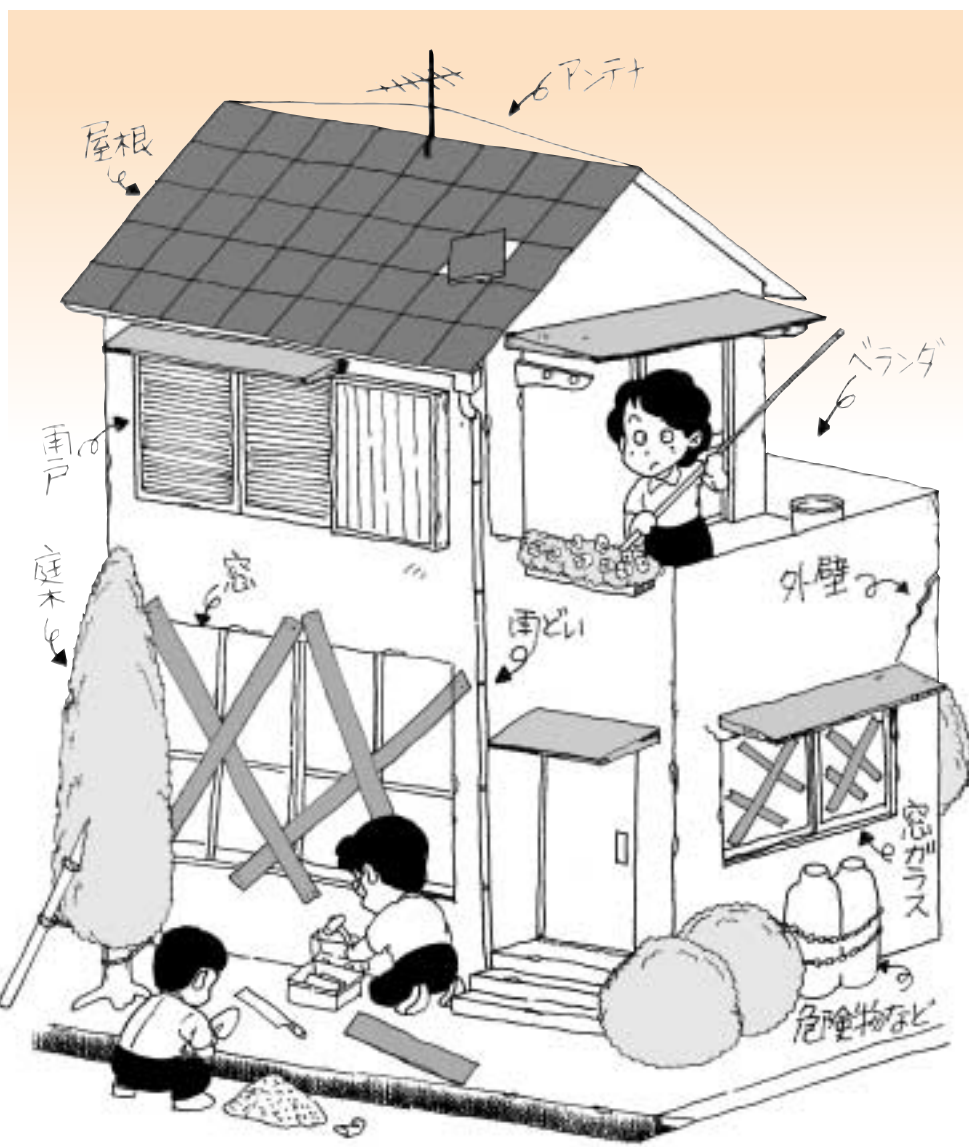
## 台風対策は万全に 台風に備えよう

強風が吹き荒れ、大雨をもたらす台風。台風が来る前の対策と台風が来たときの注意点を把握し、災害から家族を守る対策を立てておくことがたいせつです。

## 台風が来る前の対策

台風が接近してから屋外に出るのは危険です。気象情報を利用して台風が来る前に対策をとってください。

外壁のひびや腐食などを日ごろからチェックし、修理をしておく。  
窓や雨戸は鍵をかけ、必要に応じて補強する。  
雨どいなどに詰まった落ち葉は取り除いておく。  
アンテナは固定線や支柱を確認し、補強しておく。



- ① 家屋の補強
  - ・屋根瓦の割れやズレ、また
- ② 家屋周囲の片付け
  - ・鉢植えや物干し竿など風で飛ばされそうな物は、固定するか、屋内へ収納する。
  - ・庭木などは、支柱を立てたり、電線の近くにあり、剪定するのは剪定しておく。
- ③ 側溝や排水口の掃除
  - ・水はけを良くし、家の周囲の雨水対策をしておく。
- ④ 飲料水の確保
  - ・断水に備え、飲料水を確保(1日に1人3ℓ)する。
  - ・浴槽に水を張り、トイレなどの生活用水を確保。
  - ・※停電が長期化すれば、冷蔵庫のものは腐ります。水や食料品の備えは十分に。
- ⑤ 避難場所などの確認
  - ・学校や公民館など、避難場所に指定された場所への避難経路を確認する。
  - ・※避難場所は「広報いとしま」6月1日号や市ホームページを確認ください。
  - ・日ごろから、地域の中で避難経路や協力体制などを話し合っておく。
- ⑥ 非常用品の準備
  - ・懐中電灯やろうそく、ライター(マッチ)、携帯ラジオ、予備の乾電池、救急薬品、衣料、貴重品、非常用食料、ボンベ式コンロなどの非常用品をまとめ、持ち出し袋などにに入れておく。

